建設ネイチャーポジティブ
国内外で進むグリーンインフラ（NbS）の実践

土木研究所・流域水環境研究グループ長
島根大学　客員教授
グリーンインフラ官民連携プラットフォーム・技術部会長
中村圭吾

SiP グリーンインフラ研究プロジェクト
SiP 戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program
国立研究開発法人 土木研究所 PUBLIC WORKS RESEARCH INSTITUTE

書籍「建設ネイチャーポジティブ※」9月20日発刊！

○目次案

Ⅰ部　ネイチャーポジティブに動き出したインフラ整備
1．建設産業で盛り上がるネイチャーポジティブ
2．社会資本整備にビルトインされるグリーンインフラ
3．ネイチャーポジティブを目指す川づくり
4．ネイチャーポジティブに欠かせない金融

Ⅱ部　世界の現状・先端事例～ネイチャーポジティブ先進国、英国を中心として～
5．生物多様性ネットゲイン政策の衝撃
6．官民ブレンドファイナンスによるワイヤ川の自然洪水管理
7．生物多様性クレジットとインフラ整備

Ⅲ部　建設産業はネイチャーポジティブ時代にどう備えるのか
8．ネイチャーポジティブ時代のインフラ整備
9．座談会～2030年の建設ネイチャーポジティブ～

Amazon
発売中



※ネイチャーポジティブを志向した新たなインフラ整備の計画や技術、考え方、取組みなどを指す

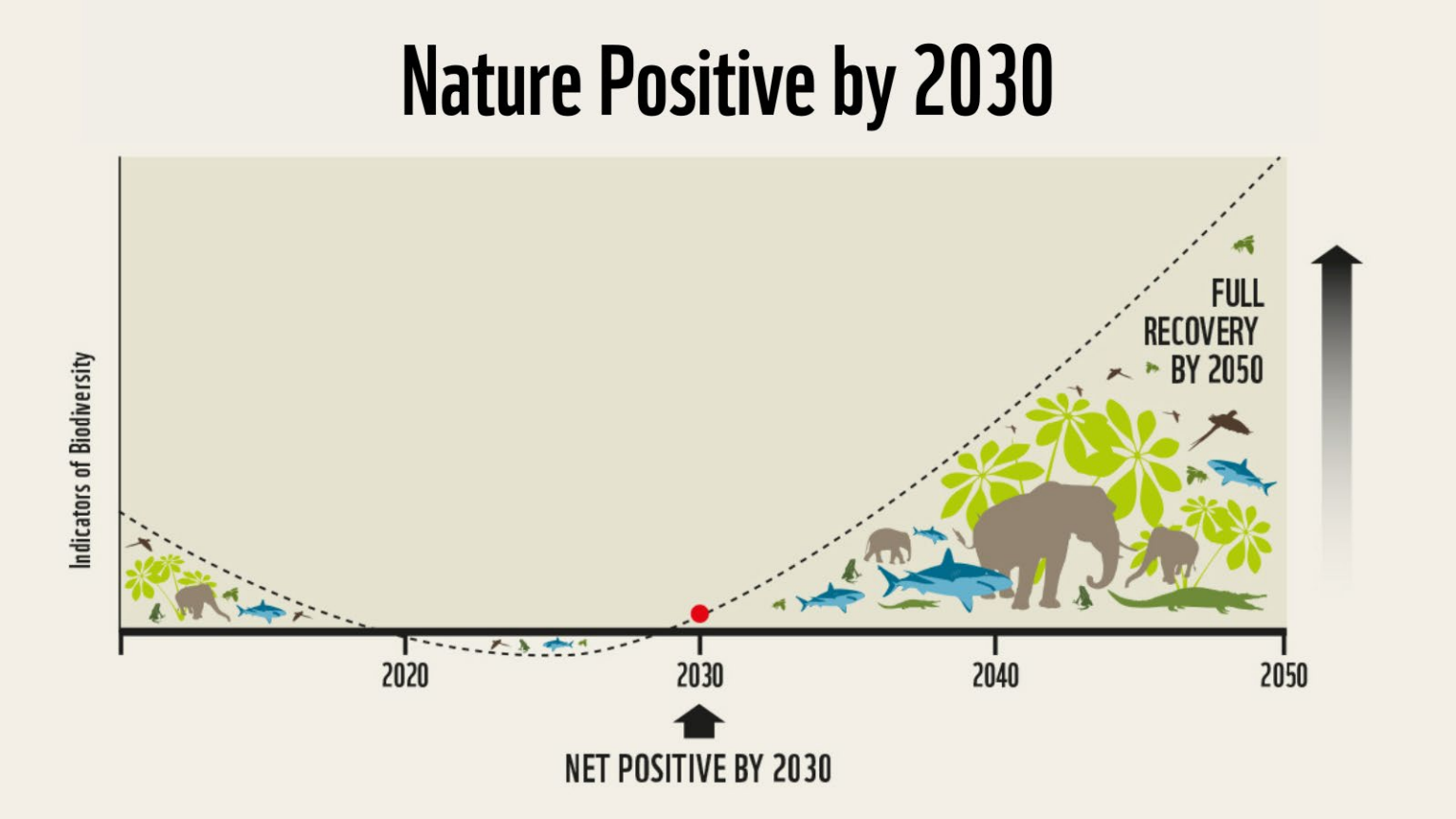
内容

- 国際的潮流としてのネイチャーポジティブ
- グリーンインフラ：建設に求められる考え方
- 英国の生物多様性ネットゲイン政策
- 川づくり：NPのトップランナー
- 官民連携のためのファイナンスデザイン
- インフラメンテから国土資本マネジメントへ

国際的潮流としての
ネイチャーポジティブ

ネイチャーポジティブとは

- 生物多様性の損失を食い止め、回復させる

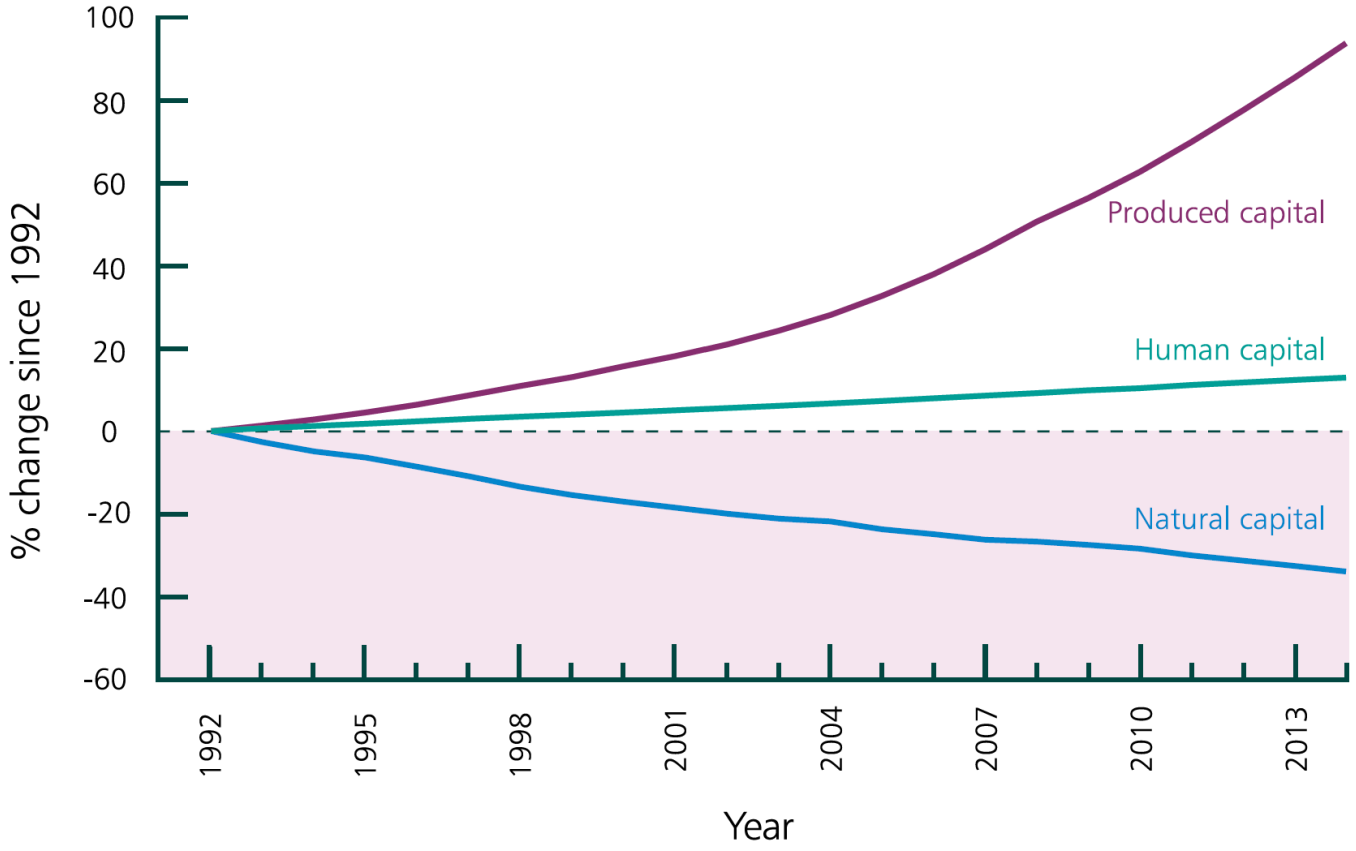


出典：https://www.naturepositive.org/

【地球の持続可能性がピンチです】
1992年以降、自然資本は40%も減耗

1992年から2014年の一人当たりの世界の富の変化

Figure 4.8 Global Wealth Per Capita, 1992 to 2014



人工資本
インフラ、住宅など

人的資本
教育水準、寿命など

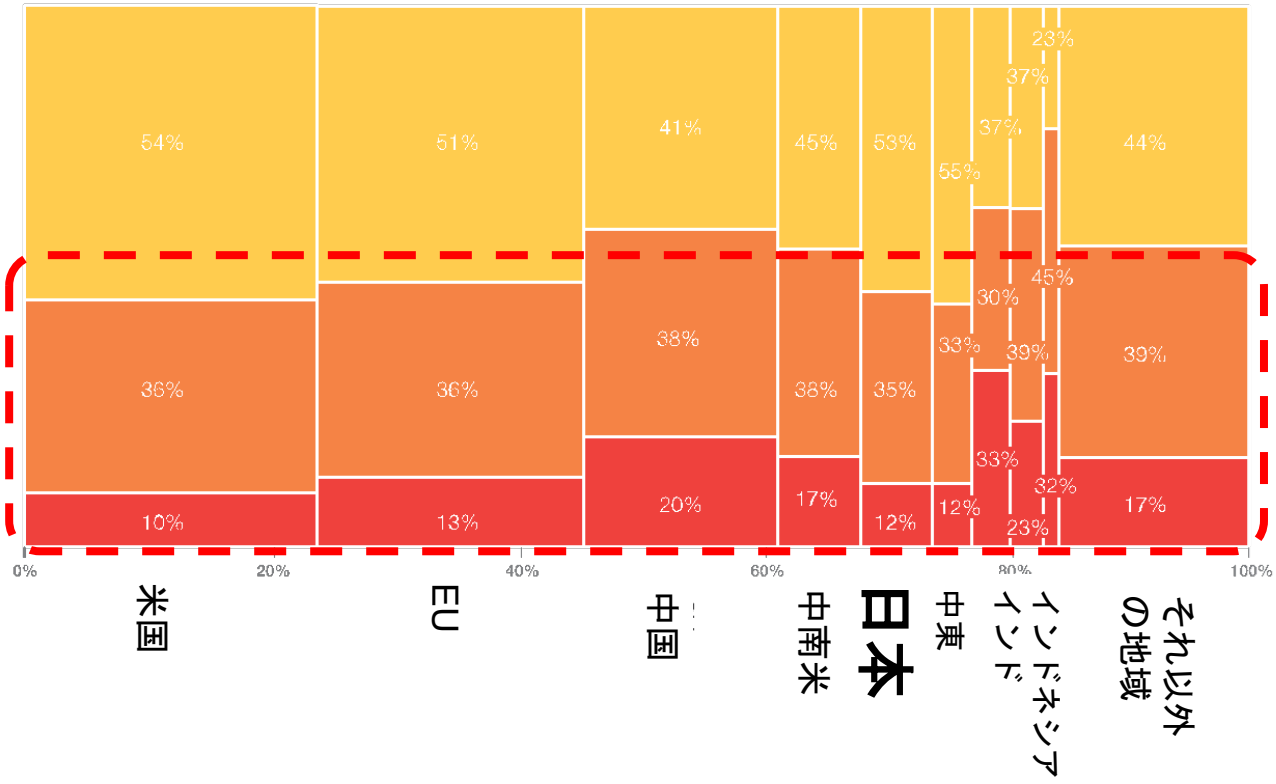
自然資本
森林、鉱物資源など

Source: Managi and Kumar (2018).

※馬奈木ら2018（図はダスグプタレビュー2021に加筆）

生物多様性の喪失は経済・ビジネスのリスク

生態系保全は「絶滅に瀕した珍しい動植物を守る運動」ではない
自然への依存度が高い三大産業：建設業、農業、食品・飲料



自然への依存低い

44兆ドル

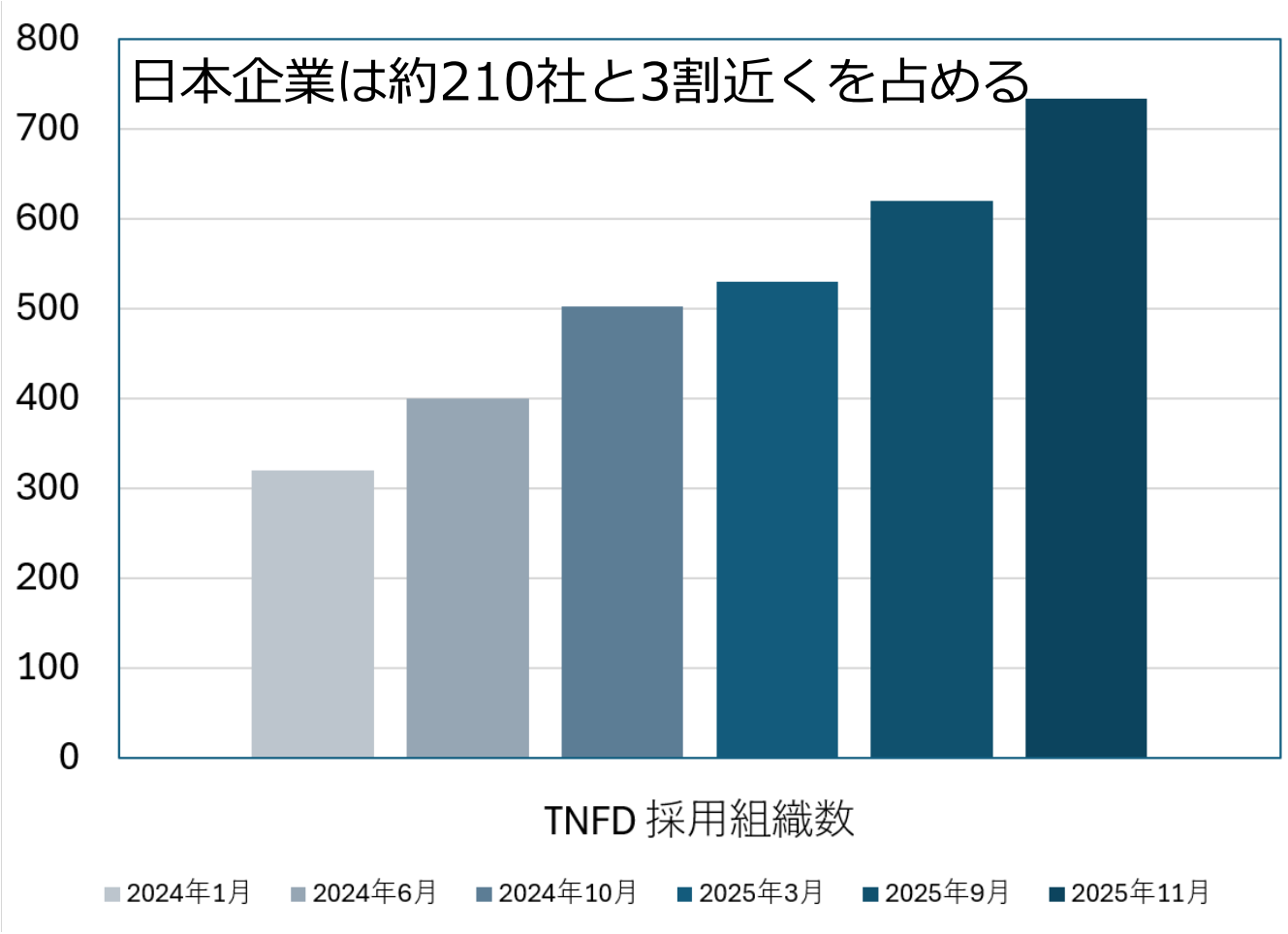
世界GDPの半分は中程度～高度に自然に依存

世界経済フォーラム (2020)

ムーンショットミレニア・「生態-社会システム共生体化チーム」資料

企業経営に急速に組み込まれるNature

自然に関する財務情報開示であるTNFDを採用する企業は約2.3倍に！

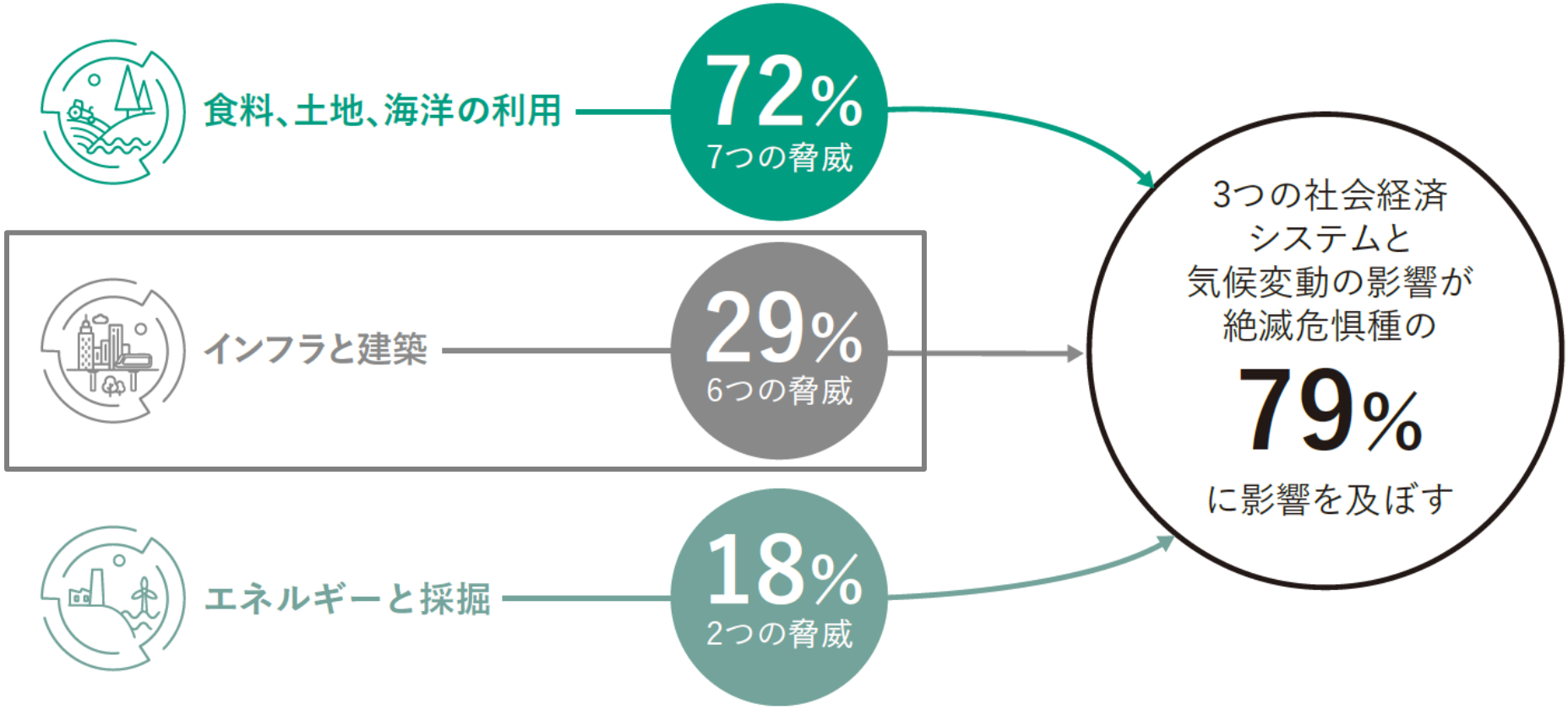


出典：TNFDのサイトより作成

ネイチャーポジティブとは
コストではなく
未来への投資である

By　ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点

建設部門が最大３０%の生物多様性損失の原因に

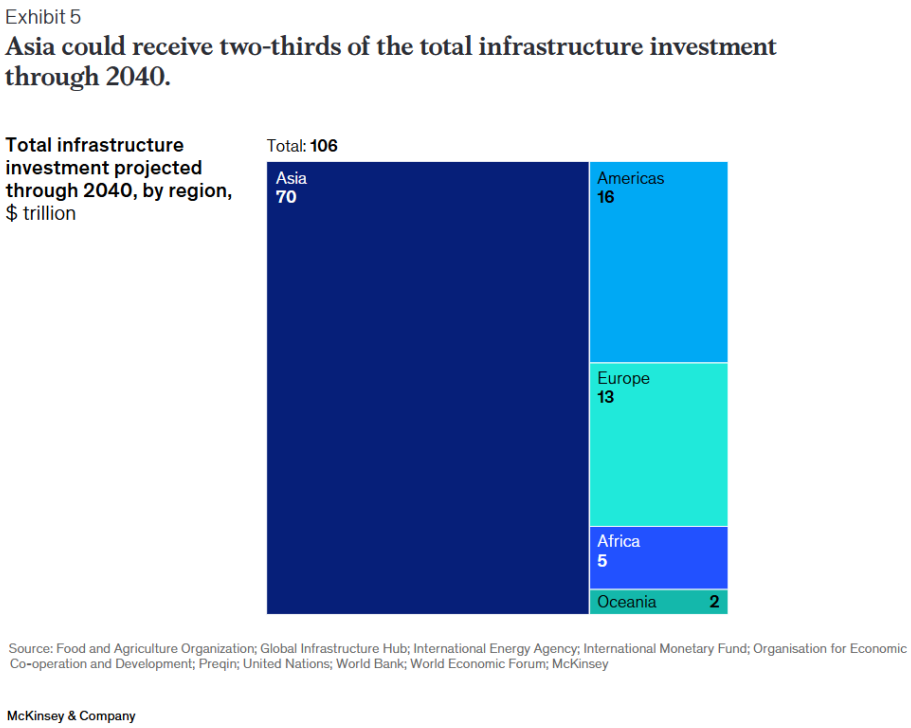


資料6 建設部門が最大30%の生物多様性損失の原因に

(出所:The Future of Nature and Business (WEF))

世界の建設事業

- 2024～2040年に世界で累計106兆ドルのインフラ投資が必要、70兆ドル（１京円）はアジア



出典：McKinsey, The Infrastructure Moment, 2025

建設部門の
ネイチャーポジティブ
が強く求められている

国内のネイチャーポジティブの動き

環境と経済に関する動き

- 金融：ESG投資やインパクト投資
- 民間企業：TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）への対応
- 30by30やOECM（≒自然共生サイト600件以上）
- ネイチャーポジティブ経済移行戦略（２０２３年度末）

	ESG課題	国内株式 パッシブ	国内株式 アクティブ	外国株式 パッシブ	外国株式 アクティブ	国内債券	外国債券
E（環境）	気候変動	100%	93%	75%	81%	100%	87%
	森林伐採	83%	27%	75%	29%	33%	47%
	水資源・水使用	67%	33%	75%	38%	42%	40%
	生物多様性	100%	73%	75%	60%	83%	47%
	汚染と資源	67%	20%	50%	26%	42%	40%
	廃棄物管理	67%	33%	50%	31%	42%	47%
	環境市場機会	67%	33%	50%	40%	50%	20%
	その他（環境）	33%	13%	50%	17%	8%	20%

出典：GPIF の運用機関が考える「重大な ESG 課題」（2026年8月12日）

ネイチャーポジティブと公共事業

- 1990年：多自然（型）川づくり
- 1997年：河川法「河川環境の整備と保全」
- 2024年５月に河川環境の定量目標に関する提言！
- 国交省が「グリーンインフラ推進戦略」策定（2019, 2023, 2026）
- 2020年：「2040年道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」を発表
- ブルーカーボン、ブルーインフラによる沿岸再生
- 2024年：TSUNAGによる緑地認証の開始
- 2025年：道路法の基本理念に「環境」
- 2026年：流域環境の目標設定へ提言

ネイチャーポジティブな道路事業例

- NEXCO中日本、新東名におけるJHEP認証(2021年8月)※
- 伐採した人工林を本来の広葉樹林に
- 量は減少、質は向上
- 量×質で自然資本UP

※JHEP認証：事業前よりも事業後の生物多様性が向上

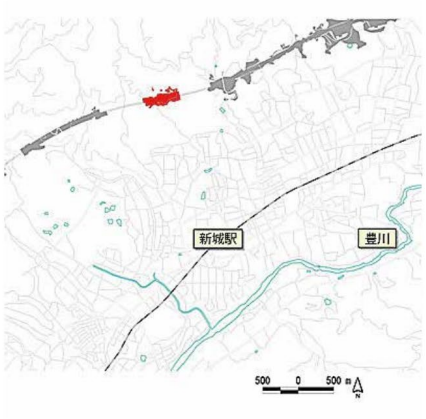
ネイチャーポジティブの実現

地域性苗木の活用

地域に自生する植物の種子を採取・育成し、現地に植える、「地域性苗木」の活用に力を入れています。他の地域の植物との交雑を抑え、地域本来の植物の遺伝子を守る効果が期待されます。

スギ・ヒノキ人工林の広葉樹林化

事業区域内に広がっていた人工林が将来的に広葉樹林に置き換わることで、生物多様性の質が大幅に向上します。



評価対象事業の位置



紺東・柿本地区の全景



伐採跡地に自然の植生が回復しつつある法面のようす

日本生態系協会JHEP認証サイトより抜粋
https://www.ecosys.or.jp/certification/jhep/case/case93.pdf

道路事業におけるネイチャーポジティブ

- 『道路空間におけるグリーンインフラ実践ガイド』（国総研）（2024.8.8）
- 『道路分野における ネイチャーポジティブの取組事例集』国交省・道路局（2025.2）
- 道路法改正：脱炭素を中心に、環境に関する基本理念が追加（2025.2）
- G-ROUTEプロジェクトの開始 ⟶



出典：国土交通省サイトより
https://g-route.mlit.go.jp/

グリーンインフラ
これからのインフラ・建設に求められる考え方



写真：UR都市機構





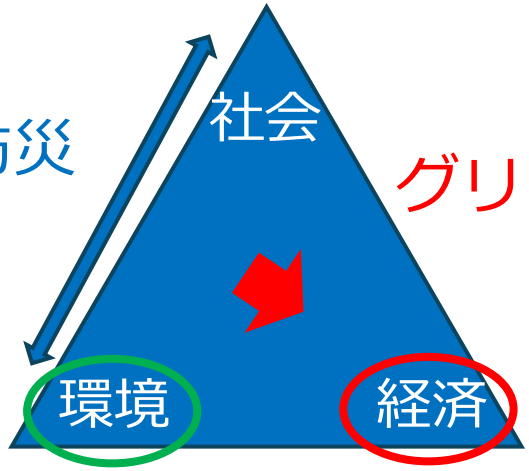
写真：林博徳氏

グリーンインフラとは？

ざっくり言うと

自然の多様な機能を生かしたインフラ整備

自然を活かした防災
ECO-DRR*
*Disaster Risk Reduction



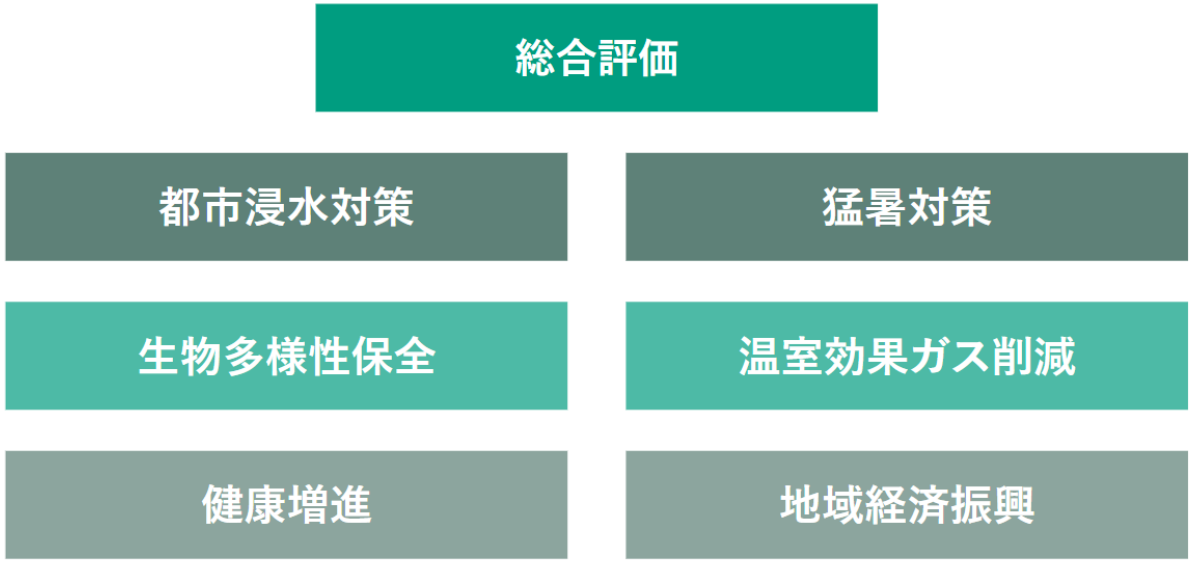
グリーンインフラへの拡張

自然再生

金融・にぎわい

※既存のインフラ整備をグリーンインフラの観点から**再編集**することも重要

自然な多様な機能とは



資料7 技術部会は6つの機能評価
（出所：グリーンインフラ評価の考え方とその評価例）

出典：中村圭吾「建設ネイチャーポジティブ」より

※「多機能インフラ(multi-functional infrastructure)」が求められている

グリーンインフラをどう考えるか

グリーンインフラとは、

（これまでの）インフラ ＋ **グリーン**

※グレーインフラとも呼ばれる

※グリーンは「みどり」よりも広く自然などの意
※グリーンには「もの」と「考え方」がある

〇インフラ＋**グリーン（もの）**の例：**基本こちらがグリーンインフラ**

・ビオトープとして機能する防災調節池
・開発前よりも緑地面積が増える街区開発や道路整備
・治水工事と同時に河原や湿地を増やす河川事業（多自然川づくり）　など

〇インフラ＋**グリーン（考え方）**の例：基本こちらはグレーインフラだがとても、こちらの発想も大事

・自然を壊さない道路のルート選定、工種選定
・自然の流れを極力阻害しないダム（人工出水、穴あきダム）
・CO2を極力排出しない下水道施設


写真：UR都市機構

吉野川サンライズ大橋



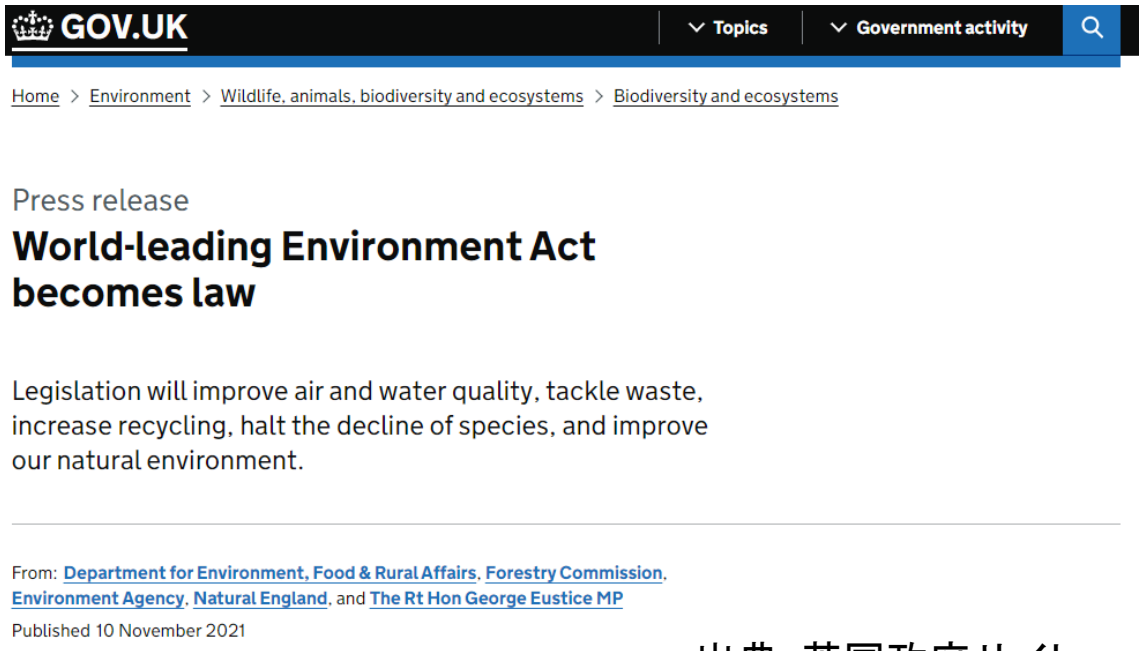
出典：土木学会デザイン賞サイト
https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/2157

英国の生物多様性ネットゲイン政策
ネイチャーポジティブ先進国で何が起きているか

英国：世界で最も野心的な環境法

開発前と比べて生物多様性を10%増加させること

（2021年11月に成立した英国の環境法で義務付け：2024年2月から必須）



GOV.UK　Topics　Government activity

Home > Environment > Wildlife, animals, biodiversity and ecosystems > Biodiversity and ecosystems

Press release

World-leading Environment Act becomes law

Legislation will improve air and water quality, tackle waste, increase recycling, halt the decline of species, and improve our natural environment.

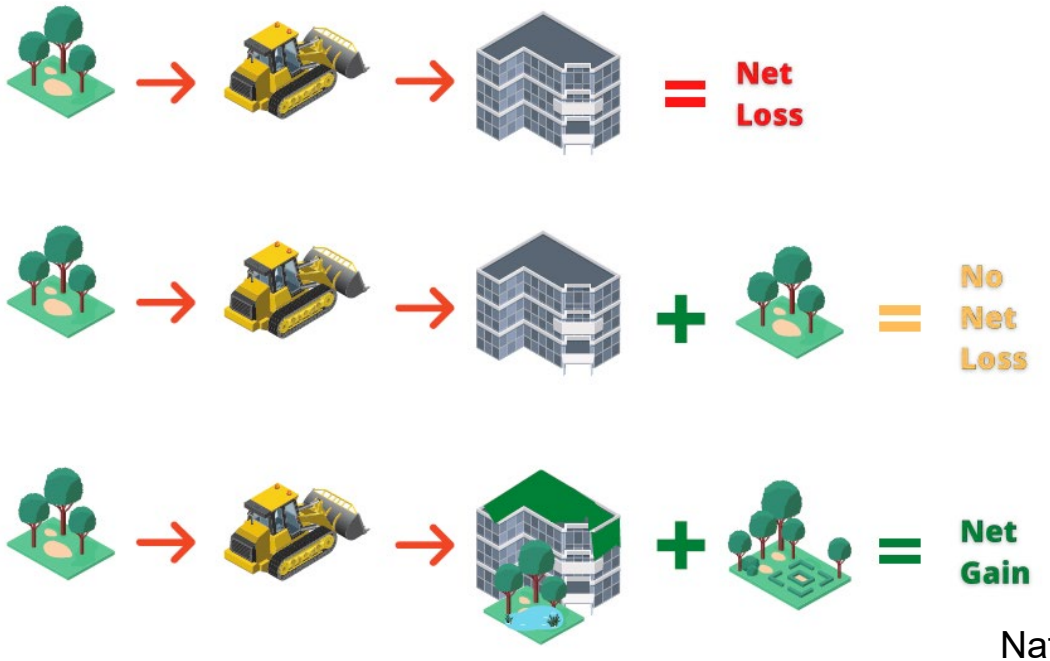
From: Department for Environment, Food & Rural Affairs, Forestry Commission, Environment Agency, Natural England, and The Rt Hon George Eustice MP

Published 10 November 2021

出典：英国政府サイト

生物多様性ネットゲインとはなにか

- 生物多様性ネットゲイン=Biodiversity net(純) gain（増）)
  - 生物多様性ネットゲイン（BNG）とは、自然環境を開発前よりも定量的によい状態にすることを目的とした開発や（あるいは）土地管理を指す手法



Natural England 資料より

BNG+10%を実現する方法は3種類

ON-SITE
(UNITS)



現場（オンサイト）で再生あるいは創出して増やす

OFF-SITE
(UNITS)

ハビタットバンク



別の場所（オフサイト）から購入、あるいは自分で再生・創出

STATUTORY
CREDITS*



最後の手段として法定の生物多様性クレジットを購入する

割高に！

Biodiversity Net Gain Brochure - Natural Englandより
https://naturalengland.blog.gov.uk/wp-content/uploads/sites/183/2022/04/BNG-Brochure_Final_Compressed-002.pdf

OUR SOLUTION

Fully-funded **nature recovery projects**

Rebuilding healthy, thriving, resilient ecosystems and restoring the natural landscape through substantial, high-integrity nature recovery projects – pre-funded for their entire lifetime.

Not isolated pockets of biodiversity, our large-scale restoration sites are part of broader, interconnected systems of nature recovery – creating wildlife corridors that give key species vital opportunities to travel, interact, and build abundance.

By connecting areas of ecological significance, we employ the core principles for creating high-integrity ecological networks – making them bigger, better, and more joined up. These projects are secured, bound, and actively managed by Environment Bank for a minimum of 30 years.

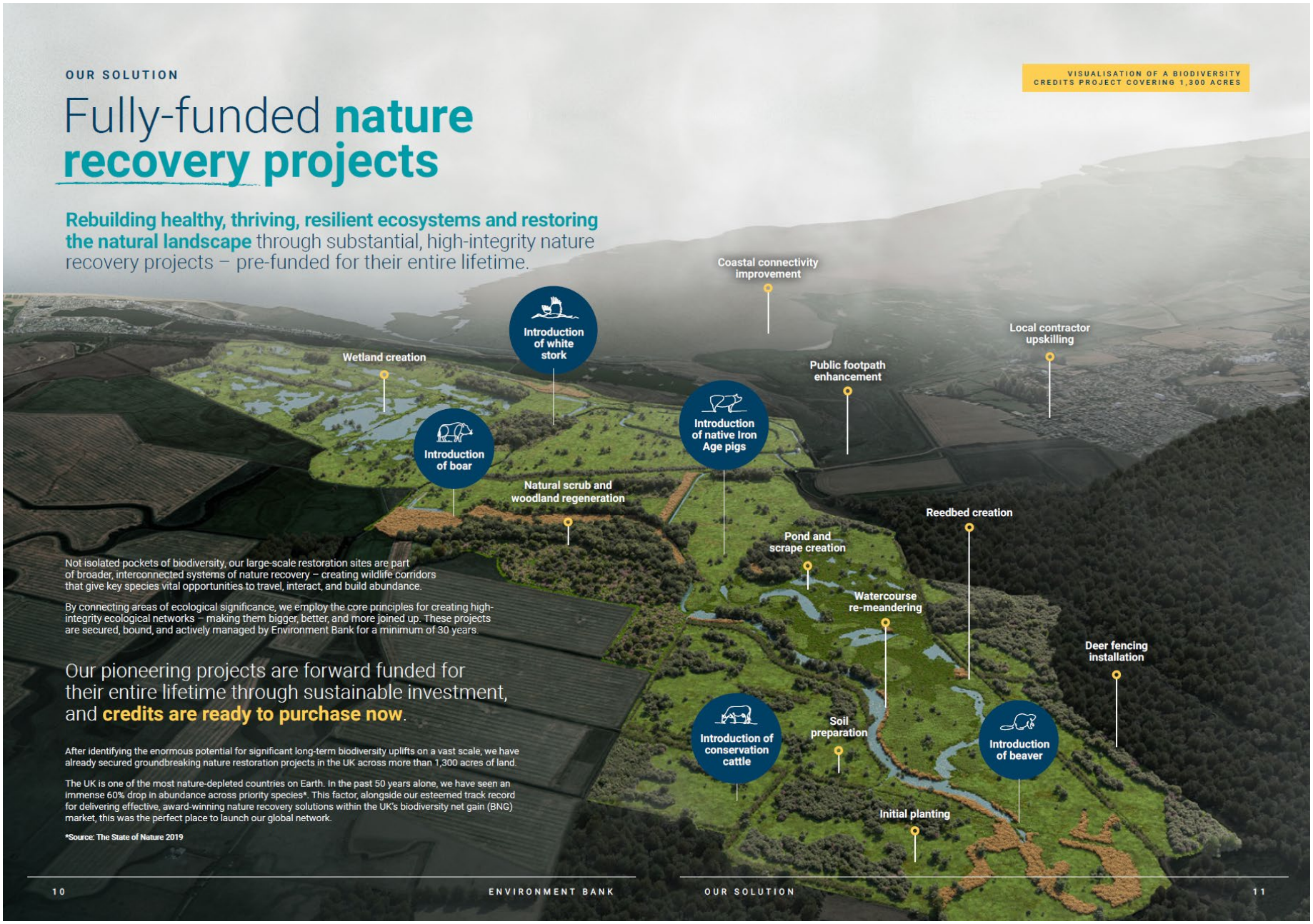
Our pioneering projects are forward funded for their entire lifetime through sustainable investment, and **credits are ready to purchase now**.

After identifying the enormous potential for significant long-term biodiversity uplifts on a vast scale, we have already secured groundbreaking nature restoration projects in the UK across more than 1,300 acres of land.

The UK is one of the most nature-depleted countries on Earth. In the past 50 years alone, we have seen an immense 60% drop in abundance across priority species*. This factor, alongside our esteemed track record for delivering effective, award-winning nature recovery solutions within the UK's biodiversity net gain (BNG) market, this was the perfect place to launch our global network.

*Source: The State of Nature 2019

VISUALISATION OF A BIODIVERSITY CREDITS PROJECT COVERING 1,300 ACRES



Source: Environment Bank, Biodiversity credits

生物多様性メトリック（評価手法）

生物多様性メトリック（評価手法）について

- 生物多様性の評価は種でなく、生息場を評価する
- 法定生物多様性メトリックが整備（2024年2月）
- Natural England※が開発 ※政府外公共機関（NDPB）
- 生物多様性ユニットで価値を計量（評価の「貨幣」）

生物多様性ユニット ＝ 生息場 ✖ 質

これが10%増であればOK！

開発後ユニット − 開発前ユニット ＝ Net Change

115　100　15

生物多様性メトリック（評価手法）について②

開発前のユニットの評価（ベースラインとも言う）（Pre-intervension or Baseline）

生物多様性ユニット ＝ 生息場 ✖ 質

↓ ※質は下記の3つで評価

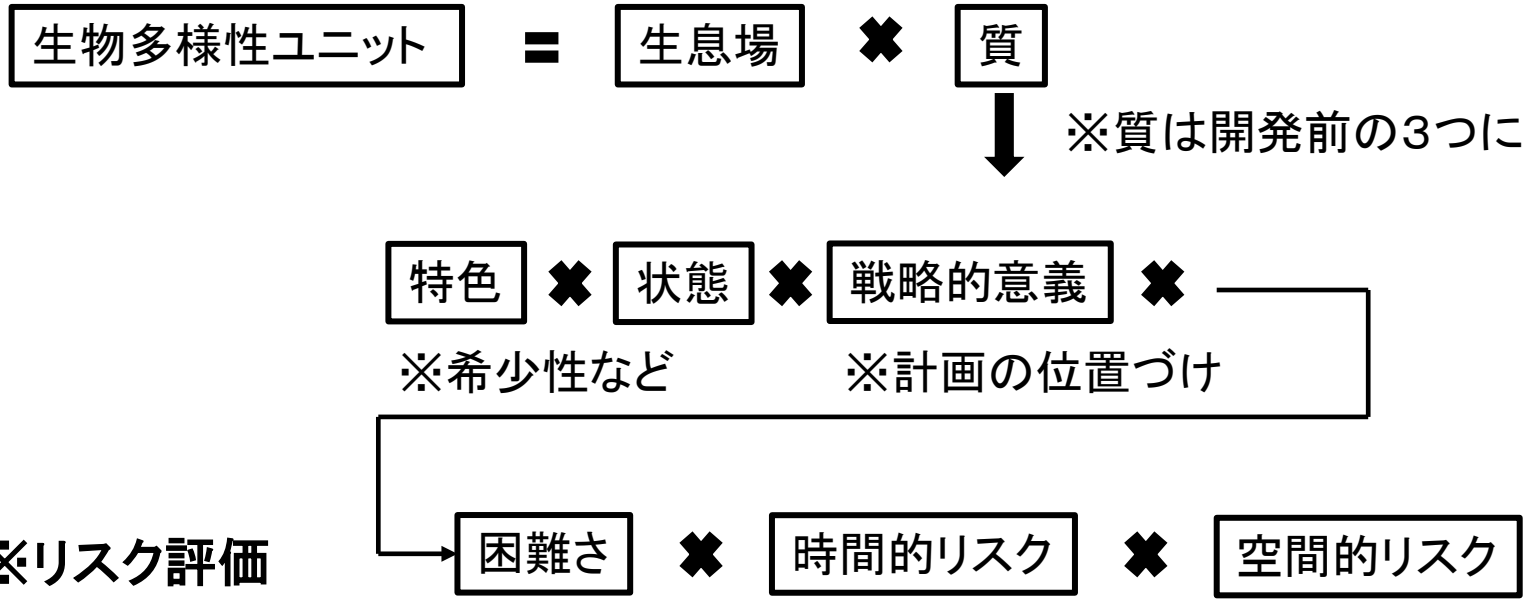
特色 ✖ 状態 ✖ 戦略的意義

※希少性など　　※計画の位置づけ

※生息場は森林のような面積生息場(ha)と
河川のような線分生息場（km）があり、個別に計算

生物多様性メトリック（評価手法）について③

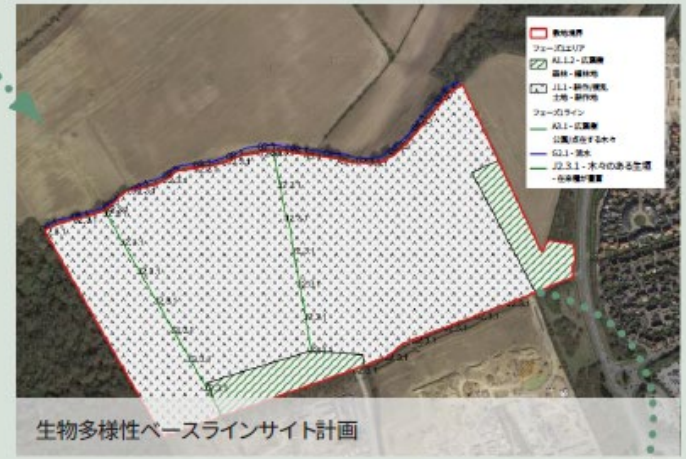
開発後のユニットの評価（Post-intervension）





開発前衛星画像サイトプラン

元は生物多様性の価値の低い農地



生物多様性ベースラインサイト計画

赤枠が対象範囲
元々の緑地は保全



計画承認された景観マスタープラン

農地の一部に植樹、水路・水辺を含む公園に
住宅街にも街路樹や樹木を配置
この例では、28%のネットゲイン（増加）

出典：Barratt社サイトより

生物多様性ネットゲインは何を引き起こすのか？

川づくり
日本のネイチャーポジティブのトップランナー

国土交通省

令和6年5月24日

ネイチャーポジティブを実現する川づくりを進めます
～ 有識者による 検討会の提言 を公表します～

このたび、「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方検討会」の提言がとりまとめられました。
今後、国土交通省では、本提言を踏まえ、具体的な取組を進めてまいります。

国土交通省では、河川環境施策に関するこれまでの取組から得られた知見 や 社会経済情勢等 の変化を踏まえ、 今後の河川環境施策を より 効果的に実施していくため、令和６年２月に 有識者による 「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方検討会」を設置し、 検討してき ました。

このたび、本 検討会の提言 「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」 がとりまとめられ 、河川における取組と流域における取組の両面から、「今後の河川整備等のあり方」が提言されました。

<本 提言のポイント 今後の河川整備等のあり方>

○河川における取組
- 「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定
- 災害復旧や施設更新を、 ネイチャーポジティブを実現する機会と捉え、環境も改善 等

○流域における取組・流域治水の取組とあわせ 、 グリーンインフラの取組 を 展開
- 生態系ネットワーク協議会の取組の情報発信・共有
- 民間企業等による流域における環境活動の認証、 官民 協働 に向けた支援や仕組み の充実 等

河川環境の定量目標は生息場

- 生息場：河原、ヨシ原など
  ○記載例
  - 河口域のヨシ原を10ha→20haに
  - 中流域の河原を3ha→7haに
- 生物と必要な生息場の関係はある程度整理
- 生物と生息場の関係はモデル等で整理



星野川：福岡県八女市

生息場は「河川環境管理シート」等で109水系すべて整理

基本情報2-1：生物の生息場の分布状況

- 生息場の情報（環境要素）を1km区間ごと（KP）に評価（水域・水際部・陸域）
- 中央値以上は1点（○）、中央値未満は0点（△）、外来種などは-1点（×）としてスコア化

地域を特徴付ける典型的な環境要素（12項目）

◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況

	距離標	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
陸域	低・中茎草地		△	△	△	△	△	△	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
	河辺性の樹林・河畔林	–	–	–	–	–	–	–	–		△		△	○	○	○	○	○	△	△	△	○
	自然裸地	–	–	–	–	–	–	–	–									△	△	○	○	○
	外来植物生育地 ＊	△	△	×	△	△	△	△	△	△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×
水際域	水生植物帯	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	△	○	△		△	△	△	○	○
	水際の自然度	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
	水際の複雑さ	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○	△	△	△	○	△	△	○	○
水域	連続する瀬と淵	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	△		○	○	○
	ワンド・たまり	○	○	○				○	○	○				△			△		△		△	○
	湛水域 ＊	–	–	–	–	–	–	–	–													
汽水	干潟					△	△	○	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	ヨシ原	△	○	△	△	○	△	○	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
特殊性	礫河原の植生域	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					
	湧水地	–	–	–	–	–	–	–	–												○	
	海浜植生帯									–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	塩沼湿地		○							–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	総合評価(典型性のみ)	2	3	1	1	3	1	5	6	5	1	1	4	3	3	1	2	2	1	3	5	7

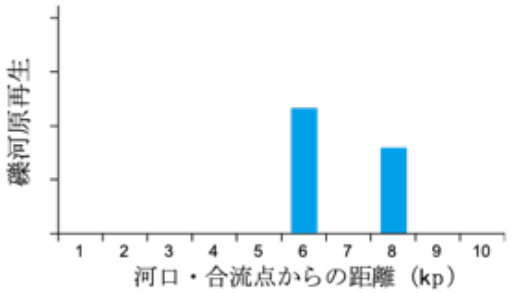
※中央値以上が○、中央値未満が△、＊の環境要素（負の指標）は中央値以上が×、
“空白”は環境要素なし（数値がゼロ）、
“灰色の網掛け”は集計対象から除外する項目（特性に照らして評価すべきでないもの）

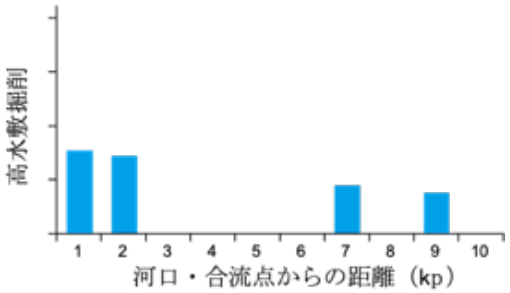
河川環境の定量的な評価に向けて

働きかけ

河川改修

湿地・ワンド再生
落差の解消
伐採・掘削 等

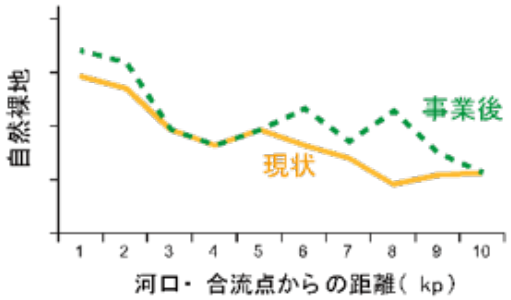


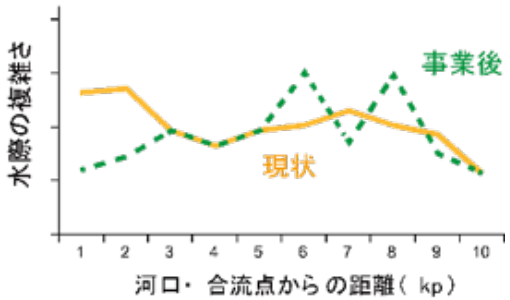


川の変化

環境要因

環管シートから評価
・ワンドの面積
・水際の複雑さ
・自然裸地 等

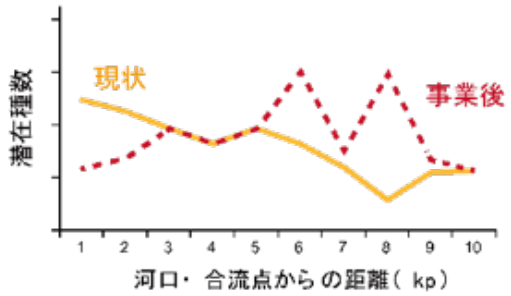




生物の変化

生物多様性

モデルにより推定
・種数
・個体数
・各指標 等



河川改修時も環境を再生！（災害復旧も）
~すべての川づくりは、多自然川づくり~



※九頭竜川水系日野川（福井河川国道事務所）

多摩川水系の環境（動植物の生息・生育・繁殖）の定量目標（案）

多摩川の環境の具体的な目標を支川浅川を含む6つの区間で設定しているよ。
書いている数字は現状→目標なんだ。





中上流部
水生植物帯（33ha→37ha）
（低・中茎草地含む）
自然裸地（72ha→83ha）

セグメント1

上流部
自然裸地（11ha→12ha）

中下流部
水生植物帯（30ha→32ha）
（低・中茎草地含む）

セグメント2-1

水生植物帯（15ha→18ha）
（低・中茎草地含む）

下流部



干潟（11ha→18ha）

セグメント2-2

河口部

セグメント3

支川浅川
自然裸地（152ha→164ha）

【多摩川・支川浅川】
滞留魚対策



滞留魚対策
川を上る魚が魚道に気づかず、
堰の下に留まることのないよう
魚道に導く流れを作ることだよ。

凡　例
河道掘削
築堤対策
高潮対策
高水護岸整備
水衝部対策
高規格堤防
樋門整備
多摩川緊急河川敷道路等
河川防災ステーション整備
二極化対策
滞留魚対策



新しく作られる自然裸地や干潟の面積が設定されたね！

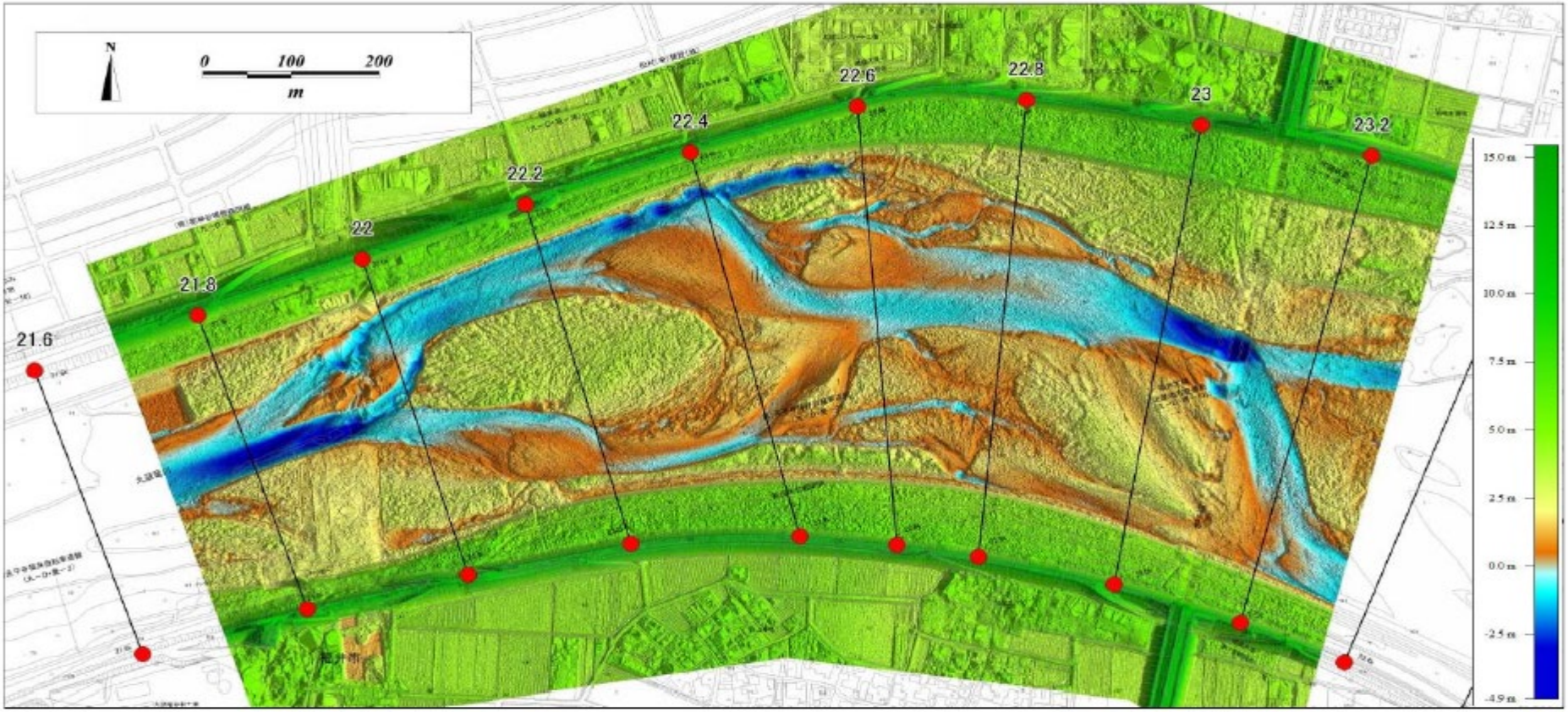
国土交通省・京浜河川事務所サイトより

グリーンレーザによる3次元河川測量（since 2016）

■グリーンレーザ（ALB）とは

●**グリーンレーザ**の正式名称は**Airborne LiDAR Bathymetry(略してALB)**で、航空機から地上の水域に向かって、レーザ光を発射するものです。

●このうち水中を通過する波長のレーザ光（グリーンレーザ）を用いることで、河床の地形を計測し、**水中の3次元地形モデルを作成**することができます。



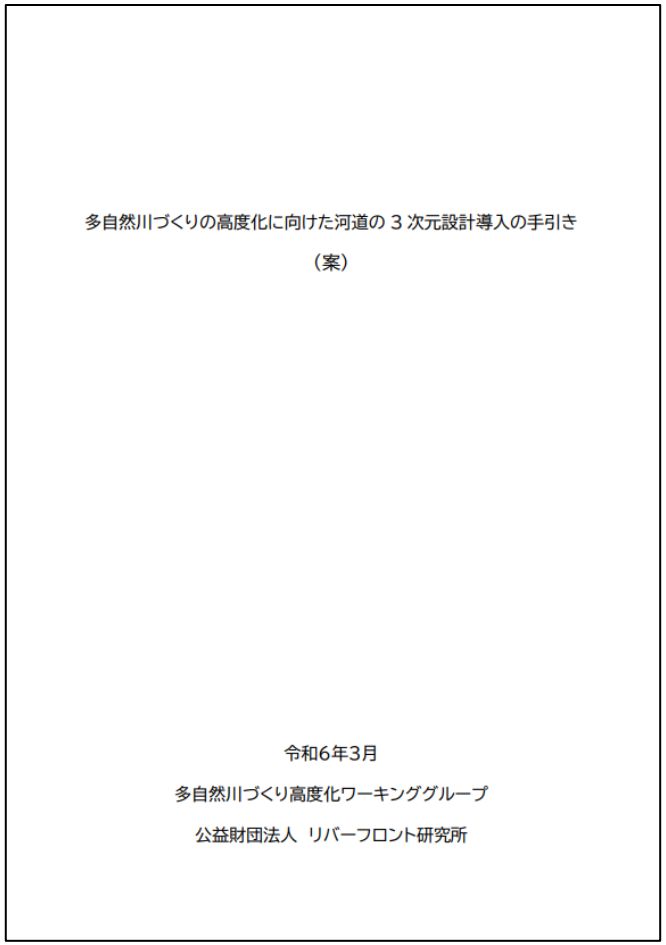
【参考】グリーンレーザ（ALB）による河川測量とその活用　http://www.rfc.or.jp/pdf/vol_84/p016.pdf

「多自然川づくり高度化ワーキンググループ」の立ち上げ（事務局：リバーフロント研究所）

- 河川CIM標準化検討小委員会で提案された手法を現場で試行すべくWGを２０２０年１０月に立ち上げ

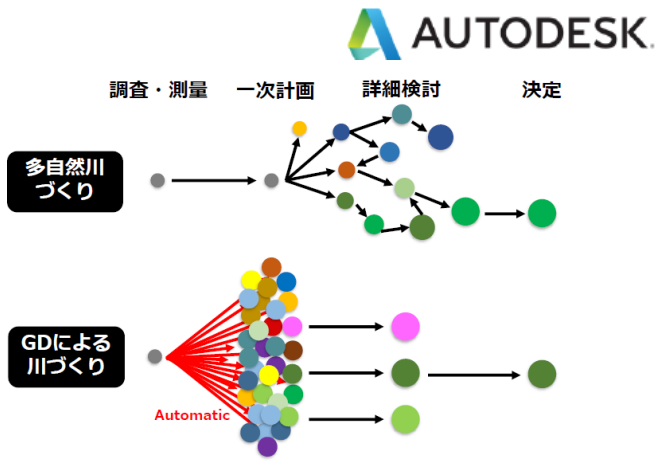
- ２０２４年３月「多自然川づくりの高度化に向けた河道の3次元設計導入の手引き（案）」公開

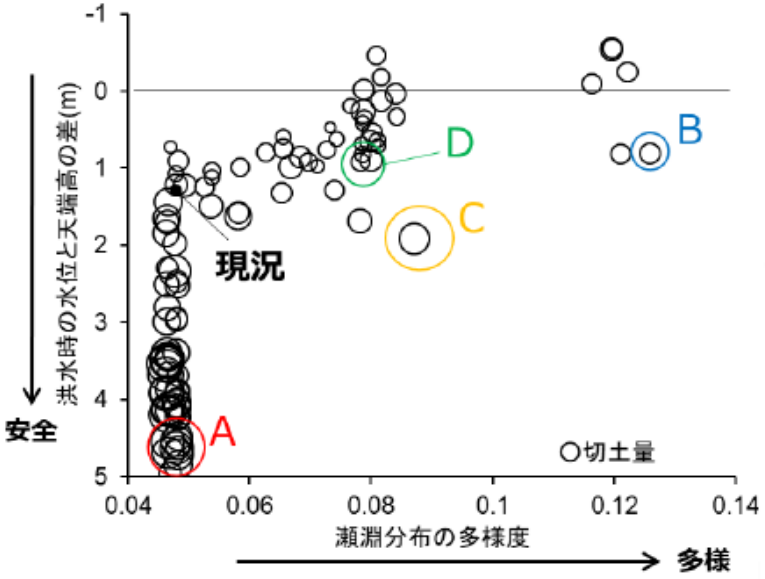
ダウンロードはこちらから

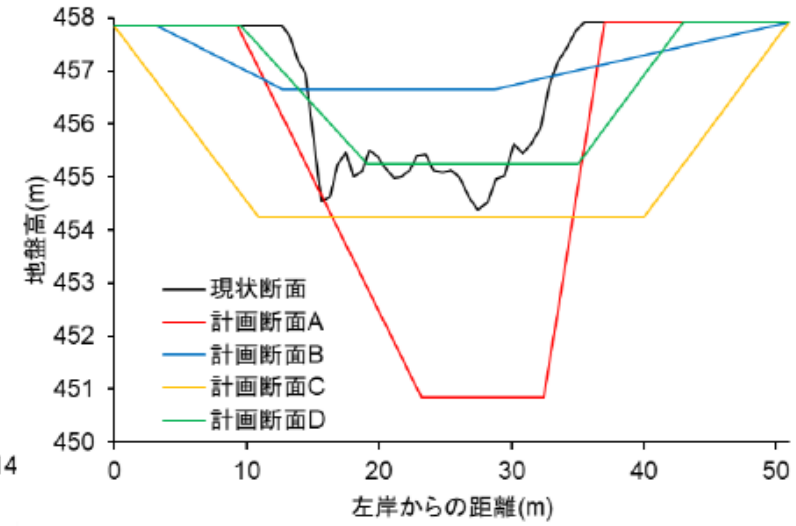


自動設計(ジェネレーティブ・デザイン)の河道設計への活用

- Revit2023のGD機能＋Dynamo
- 多数の選択肢をAI設計で準備
- 治水・環境・施工性の制約条件
- 100断面を20秒程度で作成
- 最後は人間が選ぶ
- 短断面から3次元へ



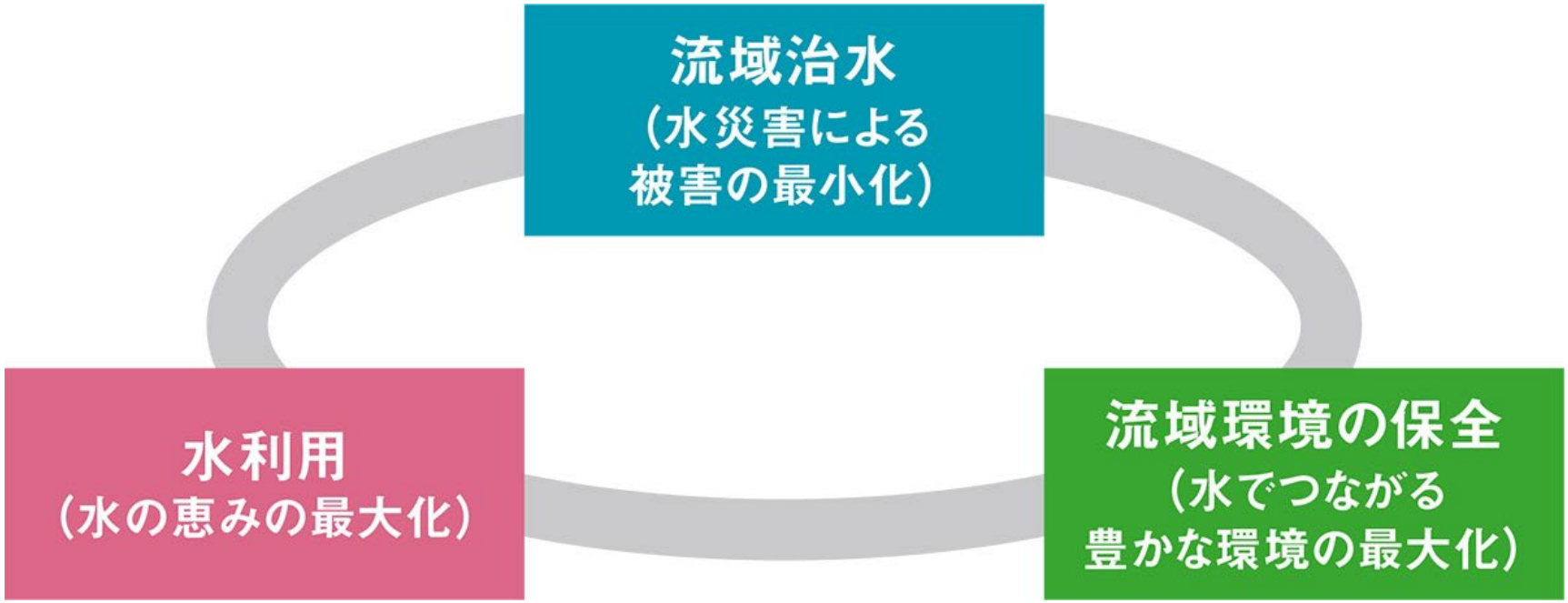




鳥取大学・河野誉仁先生資料(共同開発者)

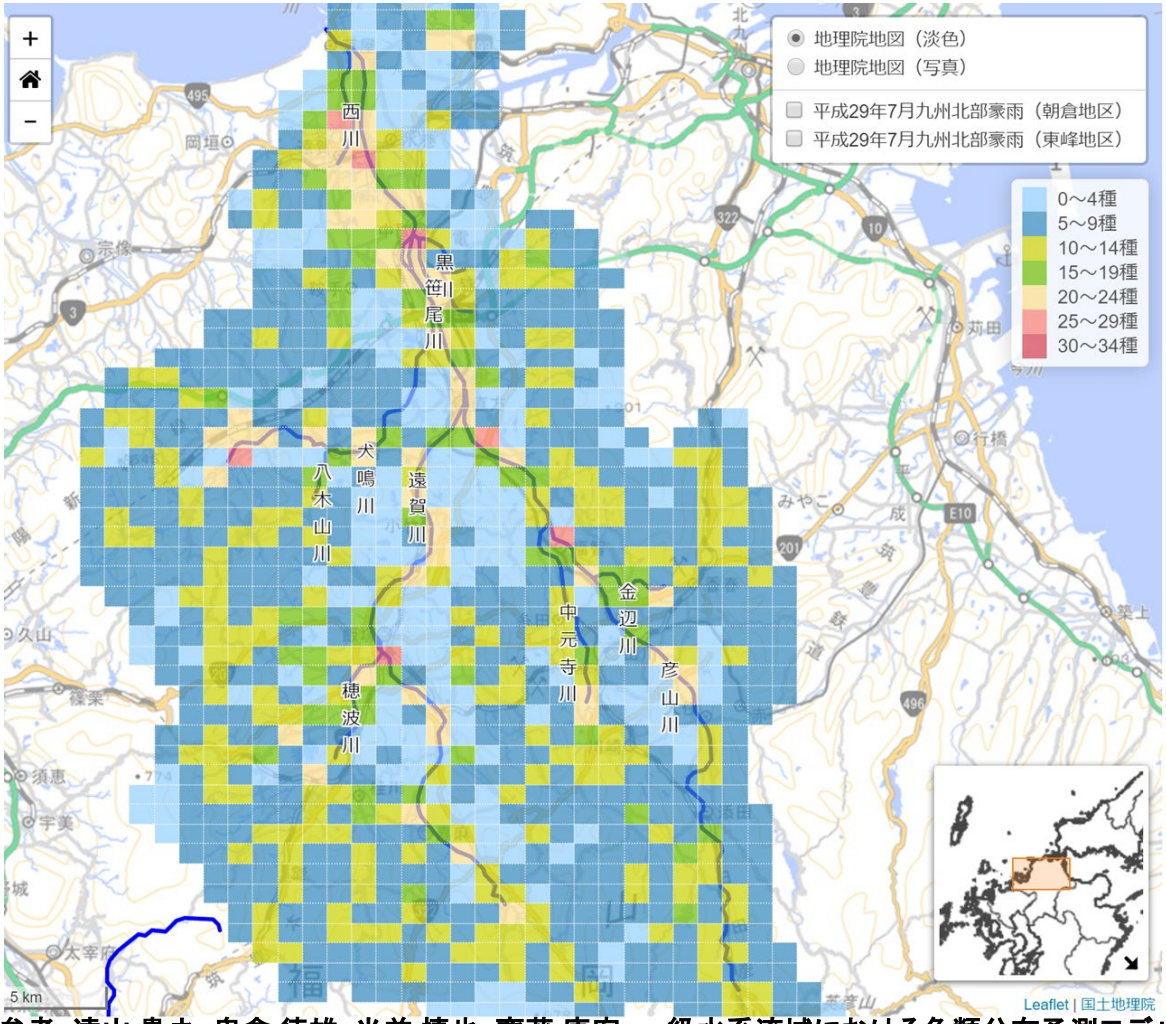
直轄以外の河川の定量評価をどうするのか？

川から流域への展開
（流域総合水管理）



出典：内閣府・日経XTECH

○流域環境の定量的把握
流域ポテンシャルマップ作成（国交省・九州地整）



- 現在、4水系で整備
- 鬼倉先生の流域データを活用
- 環境DNAを活用すれば他の水系でも作成可能

参考：遠山 貴之, 鬼倉 徳雄, 光益 慎也, 齋藤 康宏, 一級水系流域における魚類分布予測モデルの構築と多自然川づくり支援システムの開発, 河川技術論文集, 2019, 25 巻, p. 363-368.

環境DNA　～1杯のバケツの水から生物情報～



河川や湖沼の水の中には、環境中にいた様々な生物の組織片等が含まれている。この組織片等からDNAを取り出せば、必要な生物情報を得ることができる。

※生物データの解像度が劇的に上がります

○流域のネイチャーポジティブの把握
さとがわ指数による方法

ELSEVIER

Ecological Indicators
Volume 152, August 2023, 110350

The Satogawa Index: A landscape-based indicator for freshwater biodiversity in Japan

Wataru Higashikawa [a 1], Masanao Sueyoshi [a b], Terutaka Mori [a], Ryuji Yonekura [c], Keigo Nakamura [a]

※ランドスケープアプローチ

- 公開データより陸水域の景観多様性を評価
- 生態系ネットワークを考慮した生息場の配置

さとがわ指数（SGI）の開発

計算の単位：**3次メッシュの1km四方グリッドセル**

景観の分類：**水田、自然湿地、ため池、湖、河川、その他（陸地）**

GISデータ
- 筆ポリゴン（農林水産省, 2020）
- 湿地調査（環境省, 1995）
- 国土数値情報（河川、池、湖、都市）（国土交通省, 2012）

$$SGI = \frac{1}{2}\{SDI\,(1-T)(1-U) + \left(1 - \frac{1}{Sl+Sd+1}\right)\}$$

SDI：各景観の割合によるシンプソンの多様度指数
T：陸域の割合　　***U***：都市域の割合
Sl：水際長 (km)　　***Sd***：小河川・水路長 (km)

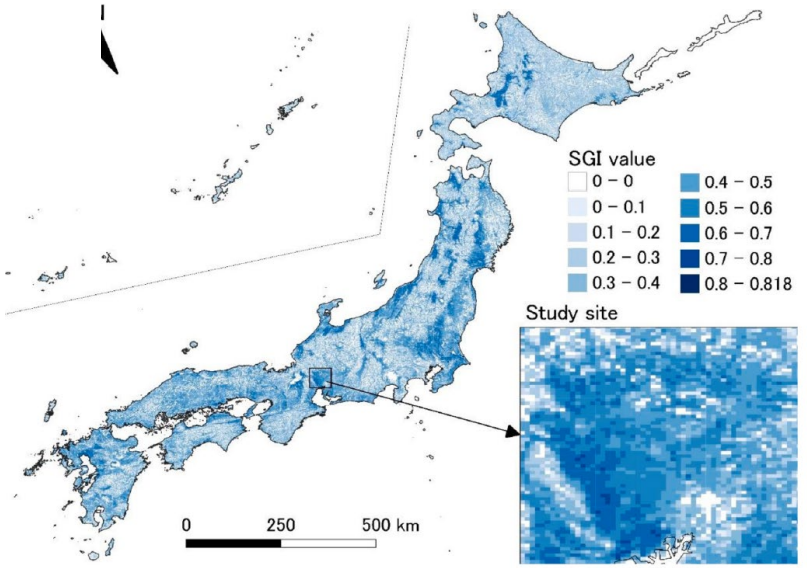


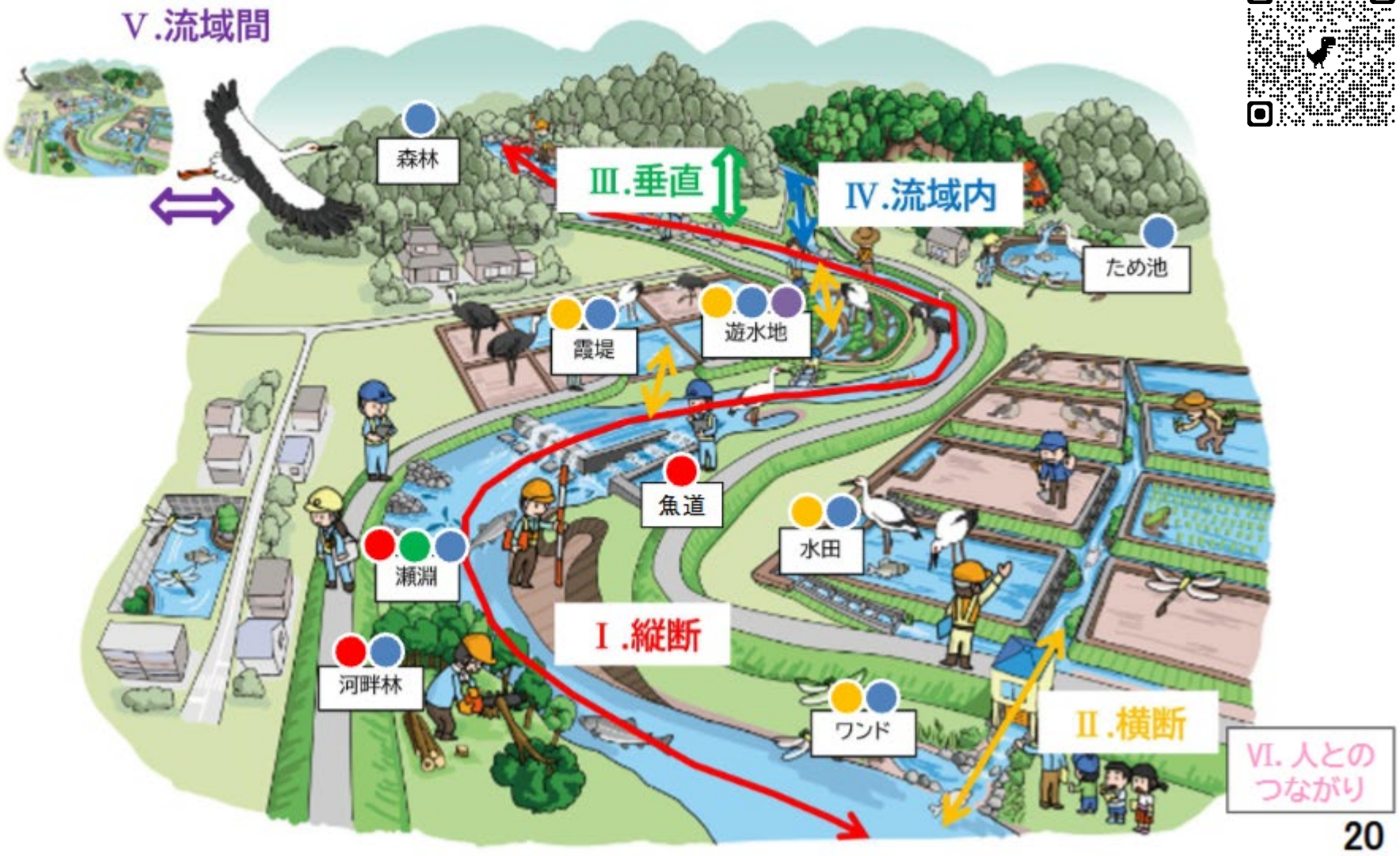
Fig. 4. Spatial patterns of landscape elements (a) and *Satogawa* Index (SGI) (b) in Japan.

※東川航氏作成資料より

流域環境の目標へ

- 「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性向上に関する検討会」開始（2026年5月）
- 「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性向上のあり方について」が提言（2026年10月？）
- 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成を通じて、流域環境の保全・再生・創出を一層加速させることを目的
  - ①生態系ネットワークの捉え方
  - ②生態系ネットワークとグリーンインフラの関係性
  - ③流域全体で共有する目標設定の考え方
  - ④多様な主体の連携

河川を基軸とした生態系ネットワークの類型分類



出典：国土交通省サイトより

流域の取組みを
どうファイナンスするか？

官民連携のための
ファイナンスデザイン

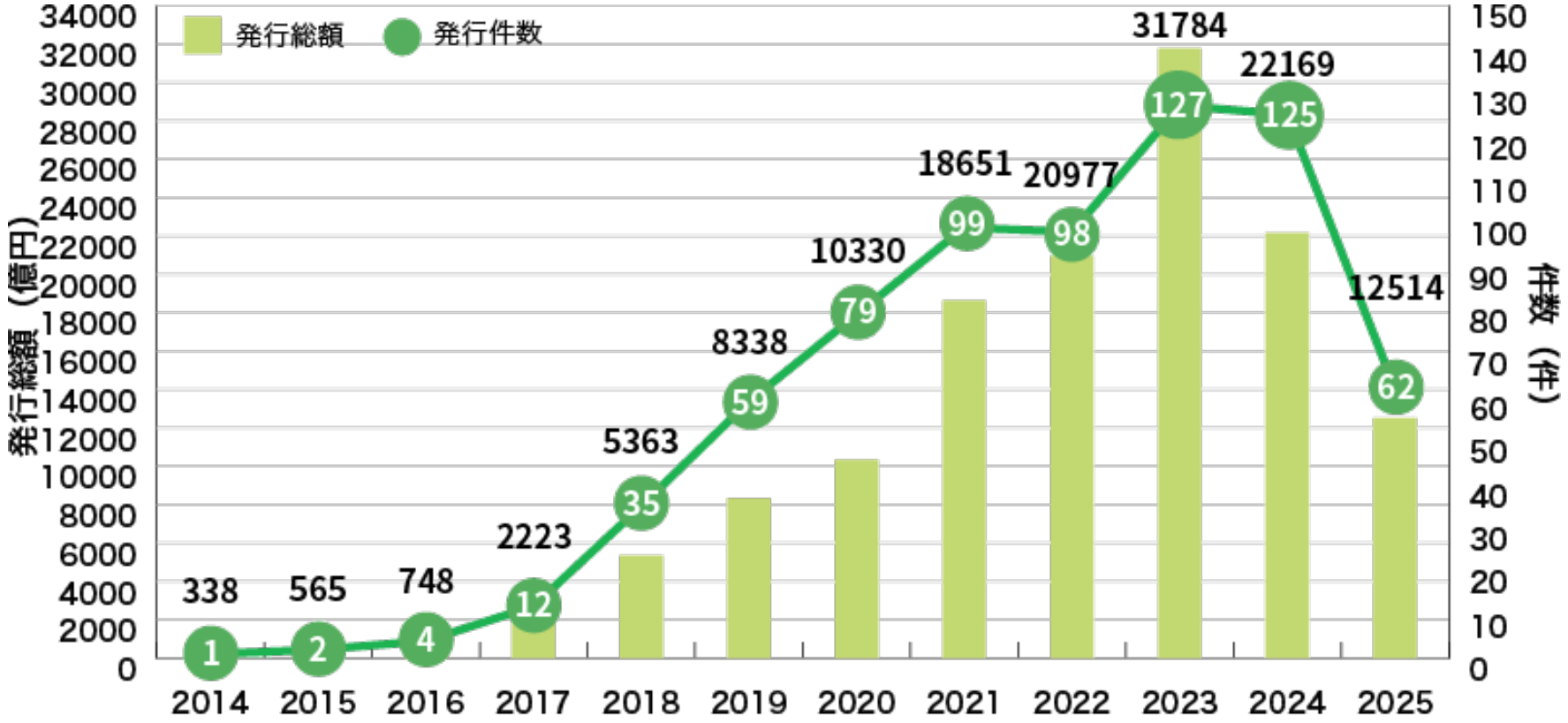
多様な資金調達へ！

事業に活用されだした
グリーンファイナンス

- グリーンボンド（・ローン）
- カーボンクレジット（例：ブルーカーボン）
- 企業版ふるさと納税・クラウドファンディング
- PFS/SIB（成果連動型民間委託契約）（前橋市のまちづくり）etc…

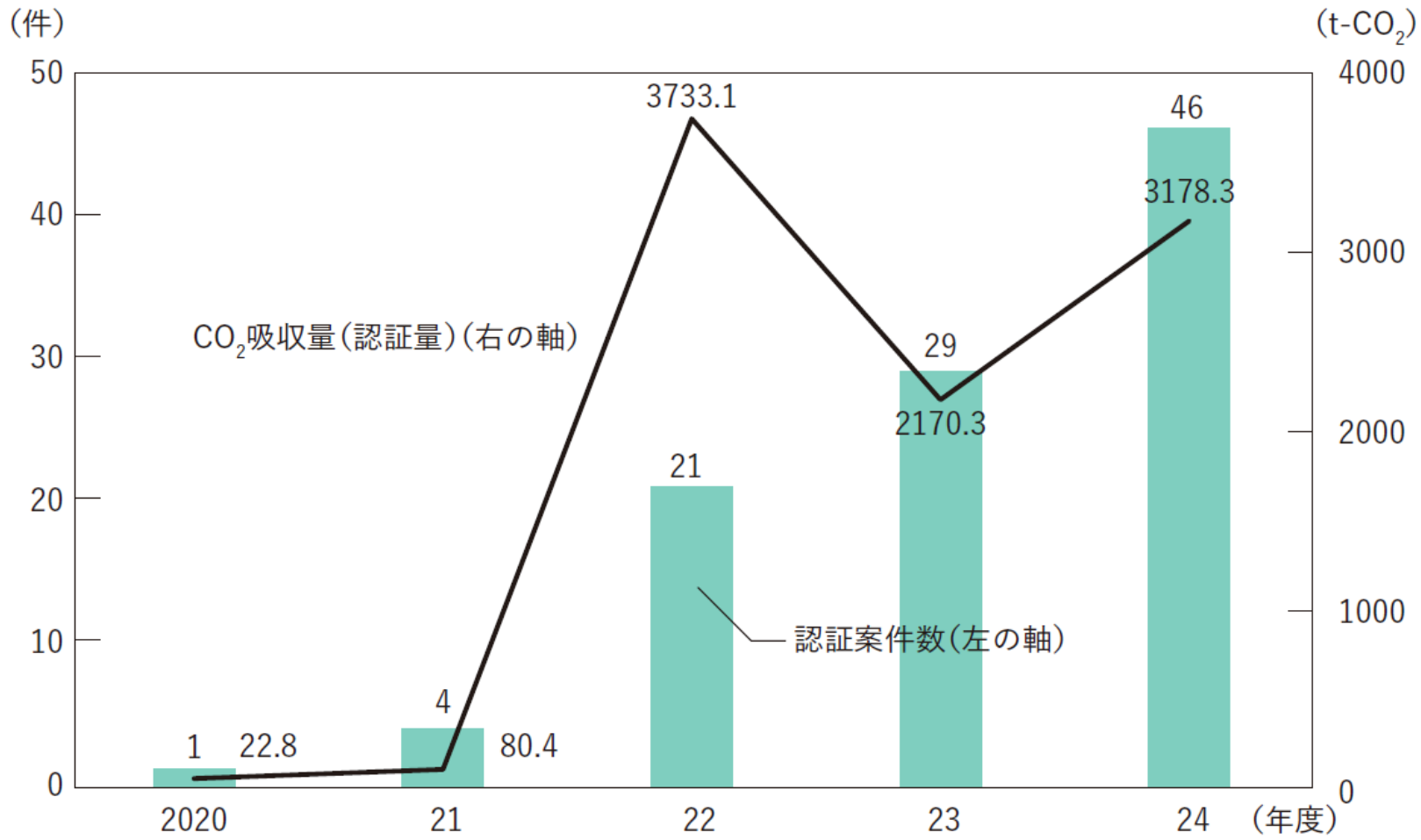
将来的には

- 生物多様性クレジット
- ネイチャークレジット（生物多様性、水資源など）



資料：国内企業等によるグリーンボンドの発行実績
出典：環境省、グリーファイナンスポータル

本書p.79参照



資料2 Jブルークレジット制度の実績

2025年3月時点(出所:国土交通省)

本書p.152より


一般財団法人
日亜ふるさと振興財団助成事業
ビオトープ米で
お酒を造るプロジェクト
水生動物を増やす技術の実証実験をしながら、
環境にやさしい水稲栽培をします
収穫したお米は、おいしい日本酒になります
この水田で生き物を捕獲するのはご遠慮ください
周辺の農作業のじゃまにならないようご注意ください
栽培者
栽培指導 JA徳島北・鳴門藍住農業支援センター
実施主体 NPO法人とくしまコウノトリ基金
協力 本家松浦酒造場

クラウドファンディングで実現した水辺整備「ナミノバ」（福井県永平寺町）



本書p.86より

写真：一般社団法人九頭竜川パドリングセンター田中謙次氏

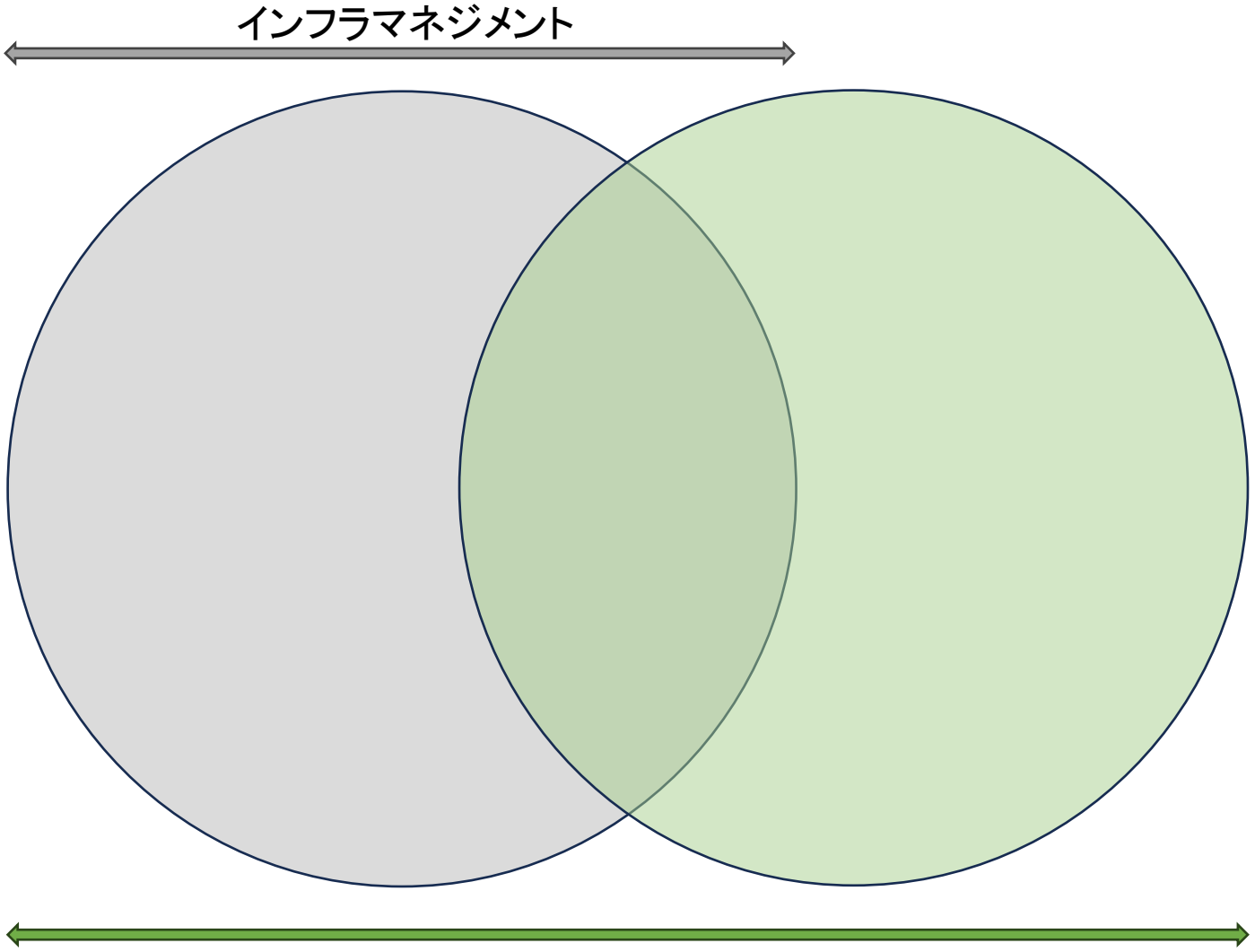
生物多様性クレジットとは

- 生物多様性クレジットとは
  - 計測され，エビデンスに基づく生物多様性の持続可能で追加的なプラスの成果を表す単位(unit)を証明するもの
  - カーボンクレジットの生物多様性版
- 3つの生物多様性クレジット
  - オフセット：環境インパクトの相殺
  - インセット:バリューチェーン内の相殺
  - 貢献：環境目標への貢献（SDGs, 30by30）

出典：中村ら（2025）生物多様性クレジットの現状と河川管理への活用可能性について，河川技術論文集

インフラメンテから国土資本マネジメントへ

「インフラ」＋「グリーン」のマネジメント



まとめ

- 国際潮流としてのネイチャーポジティブ
- 実装されるグリーンインフラ
- 河川では、定量目標など先進的取り組み
- ファイナンスデザインが大事になる
- インフラメンテから国土資本マネジメントへ